

編輯部報情閣内

# 寫真週報

第十四号 四月二十日

昭和十三年四月二十日 第三千四百九十二号 (第一回大正十三年四月二十日) 第十号

黒潮に鍛へる  
国防第二陣



船は果敢をあげて  
―― 大正十三年四月二十日 撮影 大塚光一



# 觀光滿洲

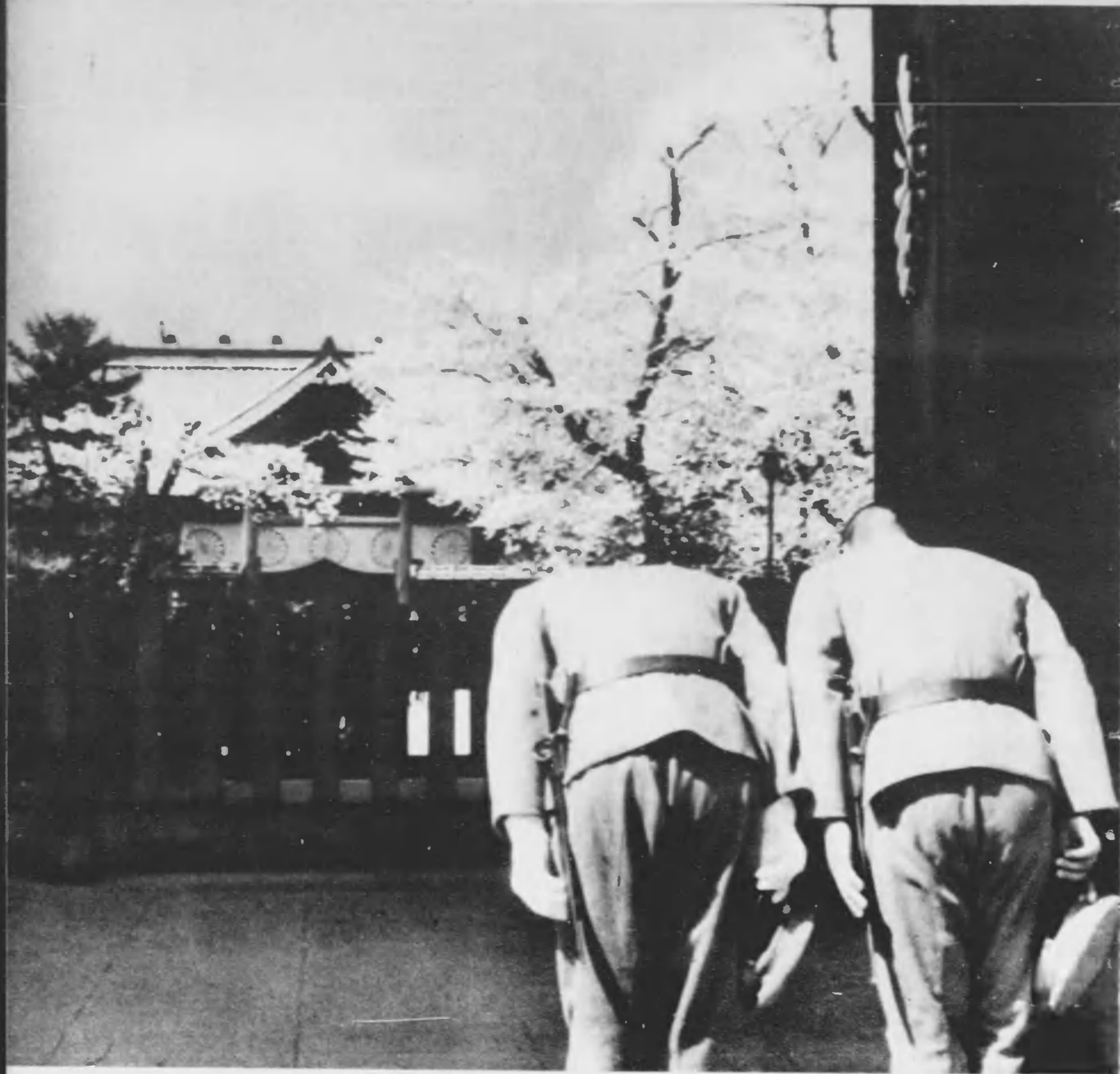
内地・朝鮮より  
往復・回遊汽車賃  
 單 獨 …… 二 割 引  
 團 體 十人以上三 割 引  
 廿人以上五 割 引  
 學生團體 …… 五 割 引 以 上

詳細は…  
 滿鐵鮮滿案内所へ  
 東京丸ビル 同赤坂葵町  
 大阪堺筋 門司税關前  
 下關駅前



滿鐵道總局

新洲北の萬里長城



## 櫻花のもと 芙蓉水へに眠る

今大東亞に祖國のため戦線  
 の華と散つた皇軍將士の英靈  
 四千五百三十三柱を合祀する  
 神祇の神國神社臨時大祭は、  
 四月二十四日の招魂式に引續  
 き二十五日から三日間厳肅に  
 行はれる。  
 長くも 天皇皇后兩陛下に  
 は、二十六日神國神社に行幸  
 啓、英靈に御慰勞遊ばされる  
 御尊定と承はる。



徐州方面  
敵の鼓動を聞く

卷麻城南門を猛撃する赤米部隊  
砲撃に次ぐ砲撃、敵陣を抜く富田部隊



嶺雲嶺々、夜界河を渉る  
張莊附近で進撃する我が部隊から通信  
筒を吊上げる我が飛行機

一週報第七十八號（公見莊  
落つ）の記事参照





↑ 郵便創設当時の郵便券。明治五年、前島暲通の提案で横濱入りの日の丸を乗馬集配人の菘山登と洋服人初で編みだされた郵便券。馬車や小舟を問わずあらゆる交通手段に適用された。

↑ 明治二十年以来、郵便省の頭文字を片假名で表した「通」の文字が用いられるようになった。



↑ 安政元年コムモデル・ペルリが携行専府に寄贈したモールス式印字電信機



↑ 創業当時、切手・賞状切



↑ 明治二年東京・横濱郵便局に設置されたグレゲイ式指示回針電鐘

## 通信の回顧

四月二十日 通信記念日

四月二十日は通信記念日である。今から六十七年前、即ち明治四年四月二十日、我が國に新式郵便制度が頒布された。越えて昭和九年通信特別會計の獨立を機會にこの日を通信記念日と定め、二十四萬の従軍員は毎年この日に斯業の礎石を築いた先達の苦難を回顧し、ますます一致團結通信報國の實績を奮ふ感興日としてゐる。

明治四年、維新の大業は漸く成つたが未だ殊制度は新舊と交ぜ混在した時代、郵便なども昔からの飛脚が頼りな時代、郵便もつたが、新式郵便制度はこの飛脚制度に一大改革を加へ、従来江戸傳馬町から大阪、京都までの運送に四十五時間乃至五十時間を要したものをこの時からは京都は三十六時間、大阪は三十九時間といふ當時では驚異的なスピードの運送が實現したのである。當時これを呼んで「飛脚の飛脚便」として感心したものであつた。

東京、京都、大阪間に新式郵便を開始した當時、郵便送付場所は東京上野、京都七ヶ所、大阪八ヶ所と指定し、飛脚便（現在のポスト）を出し、切手を賣給し、郵便を出すのは三種郵便所や賣給所、又は近くの切手賣給所や賣給所を賣給したものであるが、この賣給切手はより入はさず、郵便料金を納め、郵便切手であつて、四十八文、百文、二百文、五百文の四種が發行された。郵便を差し出すものはこの切手を購入し、信筒の裏面に貼付して、小札に宛先の姓を、自分の姓名を記して差出したのである。

この郵便運送は一日一回東京と大阪から相互に發足したものであるが、江戸時代は東京大阪間が早稲三日を要し、料金は三十三兩といふ高値のものであつた。これが僅に三十九時間、而も料金は一貫五百文といふ從來の何十分の一にも減らな、果しものとなつたので却つて不安を感じ、事業の永續するかどうかを疑つたといふことである。



↑ 明治八年一月一日米國との郵便條約が實施され、初めて諸外國との通信の途がひらけたので、八日には横濱郵便局で外國郵便の開業式を行った。

↑ 電話は明治二十三年、やうやく東京、横濱に交換局が設けられ、口局には單式交換機三座をそなへた。



↑ 明治四年東京、京都、大阪の三市内に設けられた郵便ポスト（書狀集積箱）で目安箱に似てゐる。



↑ 郵便車（通信者の前身）明治五、六年東京日本橋區舊稱四日市所在の徳川幕府の納屋を改修したもので中央扉木門が郵便車の正門、左方が四日市郵便役所の窓口

明治二年十一月東京横濱郵便局の郵便物の運送

↑ 明治二年十一月東京横濱郵便局の郵便物の運送の様子。馬車や小舟を問わずあらゆる交通手段に適用された。

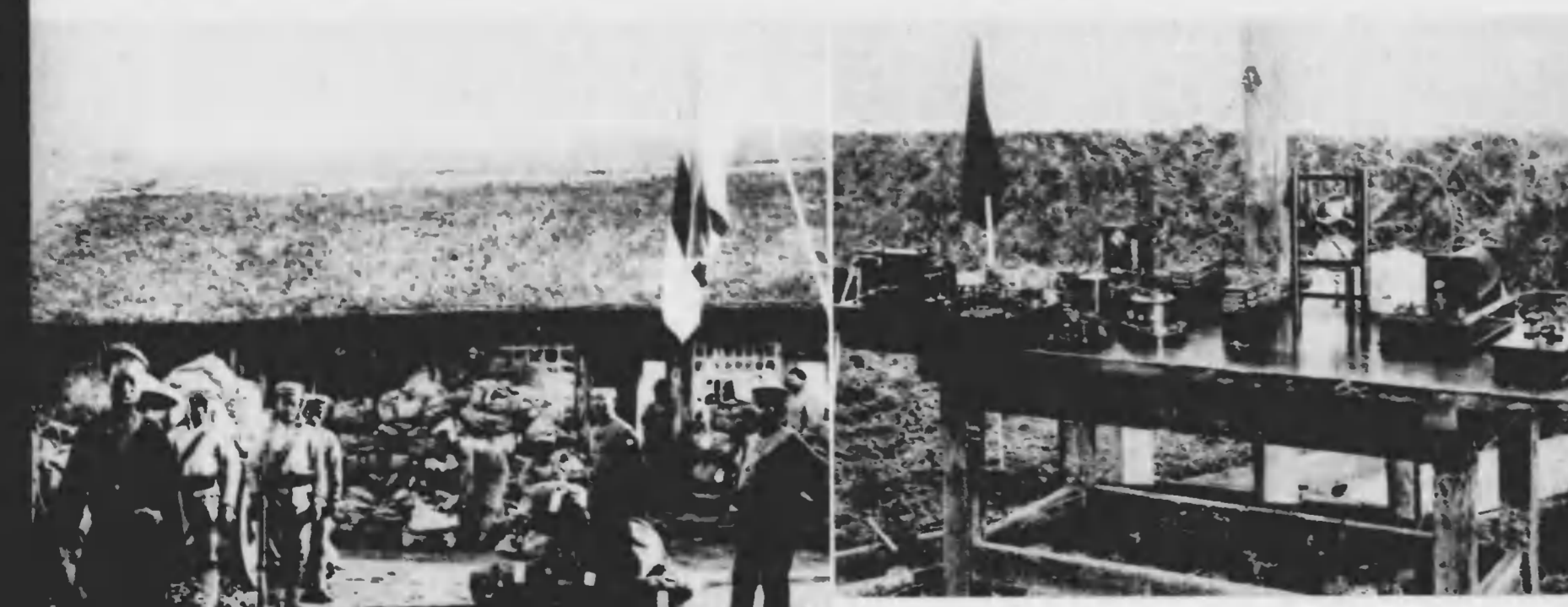
↑ 明治二年十一月東京横濱郵便局の郵便物の運送の様子。馬車や小舟を問わずあらゆる交通手段に適用された。

同年七月、八月には横浜、神戸、長崎、函館新潟の五港に郵便役所が設けられ、十二月には東京、長崎間を百八十時間、郵便便路を開始、翌五年七月には全国的に郵便便路が設けられ、六年にはハガキが發行され、八年には郵便為替、貯金の取扱を開始、十年には郵便便路に加入して國內のみならず國際的にも郵便を交換し得ることになり、郵便事業の基礎は漸次確立して、郵便が政治、経済、社會文化の發達に大きな貢献をするに至つた。

この郵便制度の確立と並行して、電信や電話も明治の黎明に早くも姿を現してゐる。電信は、安政元年ペルリ提督が幕府の時に、もつて來て幕府に賣給供實の技術傳授した電信機が渡來し、明治二年の末東京と横浜間に電信線が敷設され、電信の取扱を開始、同年十一月には東京本町に中央電信局が開業され、年々其の進歩を示して今日に及んでゐる。

電話機が我國に渡來したのは明治十年で、グラハム・ベルが電話機を發明した翌年のことである。そして直ちに東京、横浜の電信局間に試用、好結果を収めたので、まづ工部省と宮内省との間に架設、通話に供したのが實用の發端である。續いて二十二年東京・横浜間に電話交換施設を設け、一般公衆電話業務を開始した。當時兩局の加入者は僅かに二百八十五名に過ぎなかつたものであるが、今日では全国に約百萬を算へるに至り、朝六夕六の感に堪えないものがある。

無線電信は、わが國で無線電信の通信を實現し始めたのは明治三十年で、マルコーニが無線電信の通信を實現したのと同じころである。無線電信は四十五年に同じく通信が世界に於て最も早く試験に成功してゐるが、斯様に我國が無線電信の優秀を實現するものであらう。



↑ 我國最初の無線電信装置。明治三十年十二月はじめて無線電信の公開實驗が京橋區月島と海上第五臺場との間に行はれた。

↑ 明治三十七年二月、日露開戦と同時に直ちに野戦郵便が組織され、南滿洲及び樺太一帯に活動し、野戦郵便は戰風の地に一道の光明を放つた。



# 黒潮

シマン、シップの演習は、先づ甲板愛護から、朝、洗面より、先づ甲板を洗ふのが、マド羅斯の身だしなみ。海水と砂で洗ひ、椰子の屑で磨き上げた。チーク材の木理も美しい甲板を、裸足で踏む感觸は爽かだ。



推れる甲板を踏みしめ、大洋のまん中で校歌を合唱すれば、なつかしい故郷の校庭が眼に浮かぶ。故郷の父母は今何を思ふ？ 女々しい感傷を吹き飛ばせ、吹き飛ばせ！ と、聲を張りて校歌を歌ふ。

船出だ、船出だ。静かに帆柱を仰ぎながら、船を揺るば、胸の中で、何が燃ゆる。さよなら。

# 鍛へるへ 陣二第防國



てし乗便に丸成大の下斐事 船習練校學船商等高京東

艦隊が安心して戦闘が出来るのも、商船隊が、戦線と後援を結ぶ艦隊になり、大船の後部戦線の任務を、しっかりと履つてゐるからだ。

今、日本には、五百隻の商船隊があり、五大洋に到る所に、日軍艦を舞へし、白波を蹴立てて威威を發揚してゐるが、此の益々増大する海の威力と同時に、船を動かしてゐる海員、船の生きた精進力となつて活躍してゐる船員の勇を立派に育てやう。

海へ！海へ！

伸びる日本の旗先に立ち、やがて藍里の波瀾を越えて日の丸の旗を進める、海の子。雄々しい海軍男子は、コンパス

海へ！海へ！

青年こそ、海の驍将。國を國民皆の手で育てやう。

東京高等商船學校所屬の練習船大成丸は、日本に於ける練習船のバイオニアであり、世界に於ても、練習を目的とした帆船としては最初のもので、去る一月十二日東京芝浦を出帆、マージナル群島のウオーツ島を抜出してクサイ、トラマク各島を廻り、鳥羽港を経て航程六千七百マイル、四月七日横濱に歸港した。噸數二千四百二十三噸、四種バーク型補助機関附の帆船で明治三十七年建造、遠洋航海數五十六回、總航程五十六萬哩、乗組員八十八名、乗客二百四十名に及び、此の船から立派な生徒は、すべて海運界の第一線に立つて活躍してゐる。

四面皆海のが日本！

天賦に乏しく、資源と市場を、つねに海外に求めなければならぬ日本！大和民族發展の歴史は、いつも、大海原を越えて、そのたくましい觸角を伸ばしてきた。

今、亞細亞の平和と繁榮の爲に起つた我々大和民族が、次に擔はねばならぬ使命は、日本や、亞細亞を圍む海洋を、しっかりと日本の手に収めることだ。

その爲には、商船隊をもつと、もつと充實しなければならぬ。

商船隊は、平時の貿易經濟、文化の傳播の爲にはかりあつてゐる。前線艦隊が安心して戦闘が出来るのも、商船隊が、戦線と後援を結ぶ艦隊になり、大船の後部戦線の任務を、しっかりと履つてゐるからだ。

今、日本には、五百隻の商船隊があり、五大洋に到る所に、日軍艦を舞へし、白波を蹴立てて威威を發揚してゐるが、此の益々増大する海の威力と同時に、船を動かしてゐる海員、船の生きた精進力となつて活躍してゐる船員の勇を立派に育てやう。

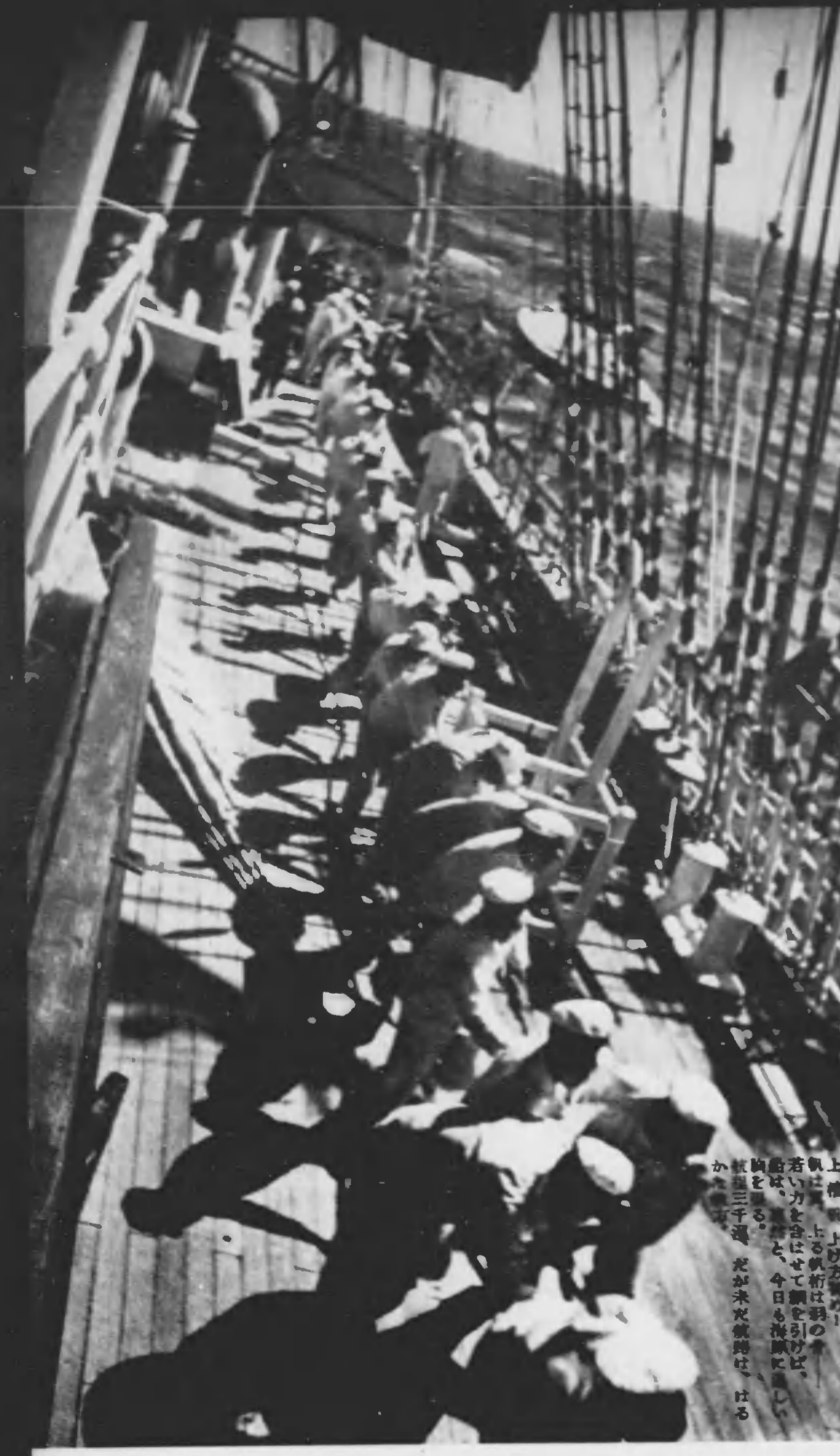
海へ！海へ！

伸びる日本の旗先に立ち、やがて藍里の波瀾を越えて日の丸の旗を進める、海の子。雄々しい海軍男子は、コンパス

海へ！海へ！

青年こそ、海の驍将。國を國民皆の手で育てやう。

東京高等商船學校所屬の練習船大成丸は、日本に於ける練習船のバイオニアであり、世界に於ても、練習を目的とした帆船としては最初のもので、去る一月十二日東京芝浦を出帆、マージナル群島のウオーツ島を抜出してクサイ、トラマク各島を廻り、鳥羽港を経て航程六千七百マイル、四月七日横濱に歸港した。噸數二千四百二十三噸、四種バーク型補助機関附の帆船で明治三十七年建造、遠洋航海數五十六回、總航程五十六萬哩、乗組員八十八名、乗客二百四十名に及び、此の船から立派な生徒は、すべて海運界の第一線に立つて活躍してゐる。



海へ！海へ！

青年こそ、海の驍将。國を國民皆の手で育てやう。

東京高等商船學校所屬の練習船大成丸は、日本に於ける練習船のバイオニアであり、世界に於ても、練習を目的とした帆船としては最初のもので、去る一月十二日東京芝浦を出帆、マージナル群島のウオーツ島を抜出してクサイ、トラマク各島を廻り、鳥羽港を経て航程六千七百マイル、四月七日横濱に歸港した。噸數二千四百二十三噸、四種バーク型補助機関附の帆船で明治三十七年建造、遠洋航海數五十六回、總航程五十六萬哩、乗組員八十八名、乗客二百四十名に及び、此の船から立派な生徒は、すべて海運界の第一線に立つて活躍してゐる。

はるか水平線の  
彼方に沈んでゆく  
太陽。半透明の、  
清らかな紅色が染  
める海洋の夕暮に  
ぼつかりと浮んだ  
船體。あ、わが  
練習艦の海を照  
らす英姿だ。胸に  
こみ上げてくる感  
動をそのまま感  
ずる。手旗信號「安  
航を祈る」

休息のひと時、  
奇麗に磨かれた甲  
板に腰をこらんで、  
青空を仰ぎながら  
夕ヒチの舟を想ひ  
セント・レナの港  
を語る。若いマド  
ロス達が抱く旅々  
の夢を載せて、今  
日も練習船は、  
大海原をひた走る。



訓示にも、明ら  
いユーモアが含ま  
れて、上陸前の歌  
が、甲板に爆発  
する。激浪、暴風  
と闘ってきた長い  
辛苦の航海も、今  
日あつてこそ、す  
べてを忘れること  
が出来ると、眼前に  
広がる海、空、  
もう間もなく、ヤ  
はらかい土が踏み  
ぬけるのだ。

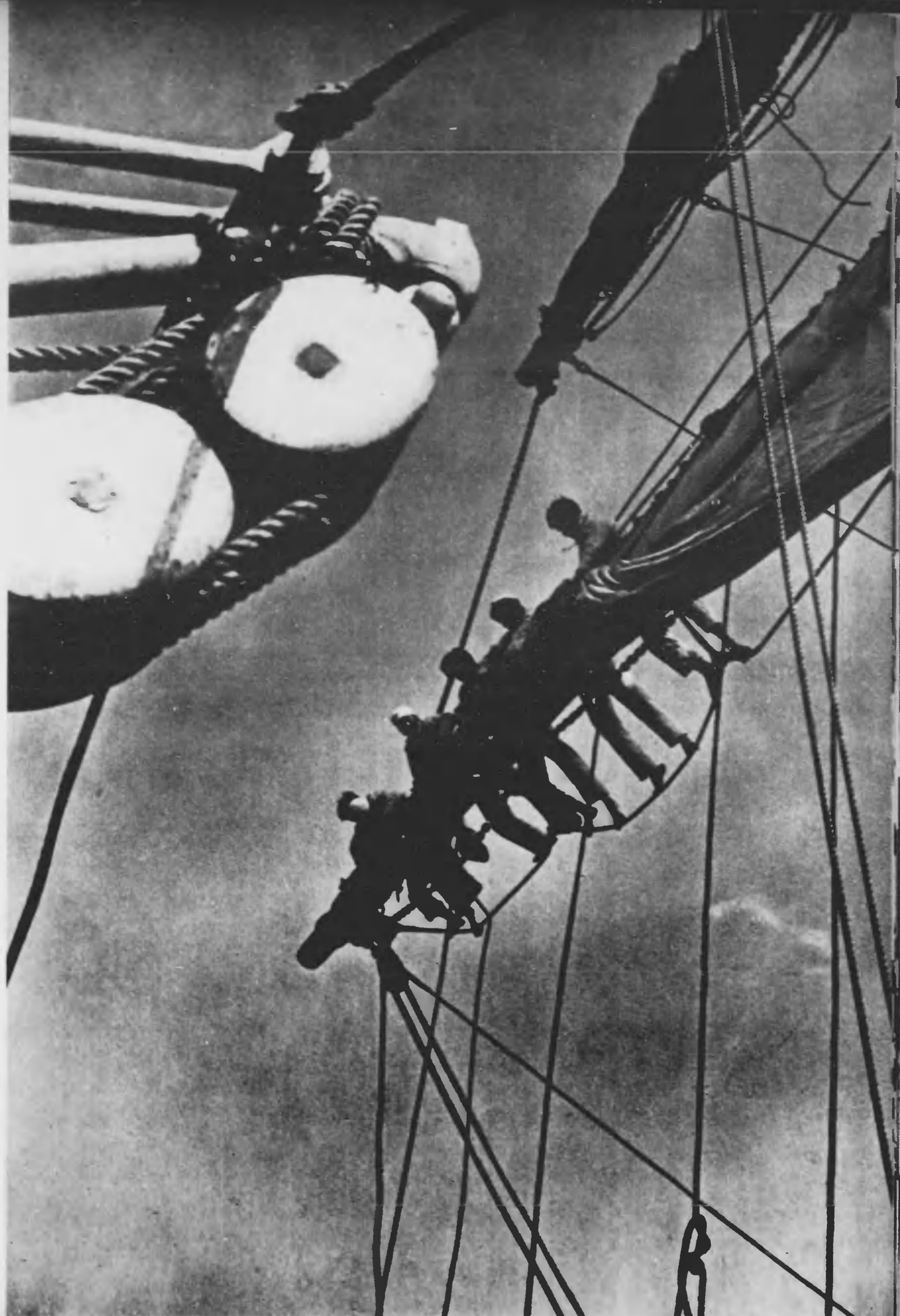
「帆を降して今日  
は直士官が見張  
りの士官に呼びか  
ける。一未だ見え  
ないか！一ああ、  
未だ見えぬよ、  
お前、針路を誤つ  
ておられないか。一ふ  
さけるな。一海を  
出て一月、たゞ紺  
碧の海と空と、行  
きも、間もなく、行  
鳥影が現れる筈だ。

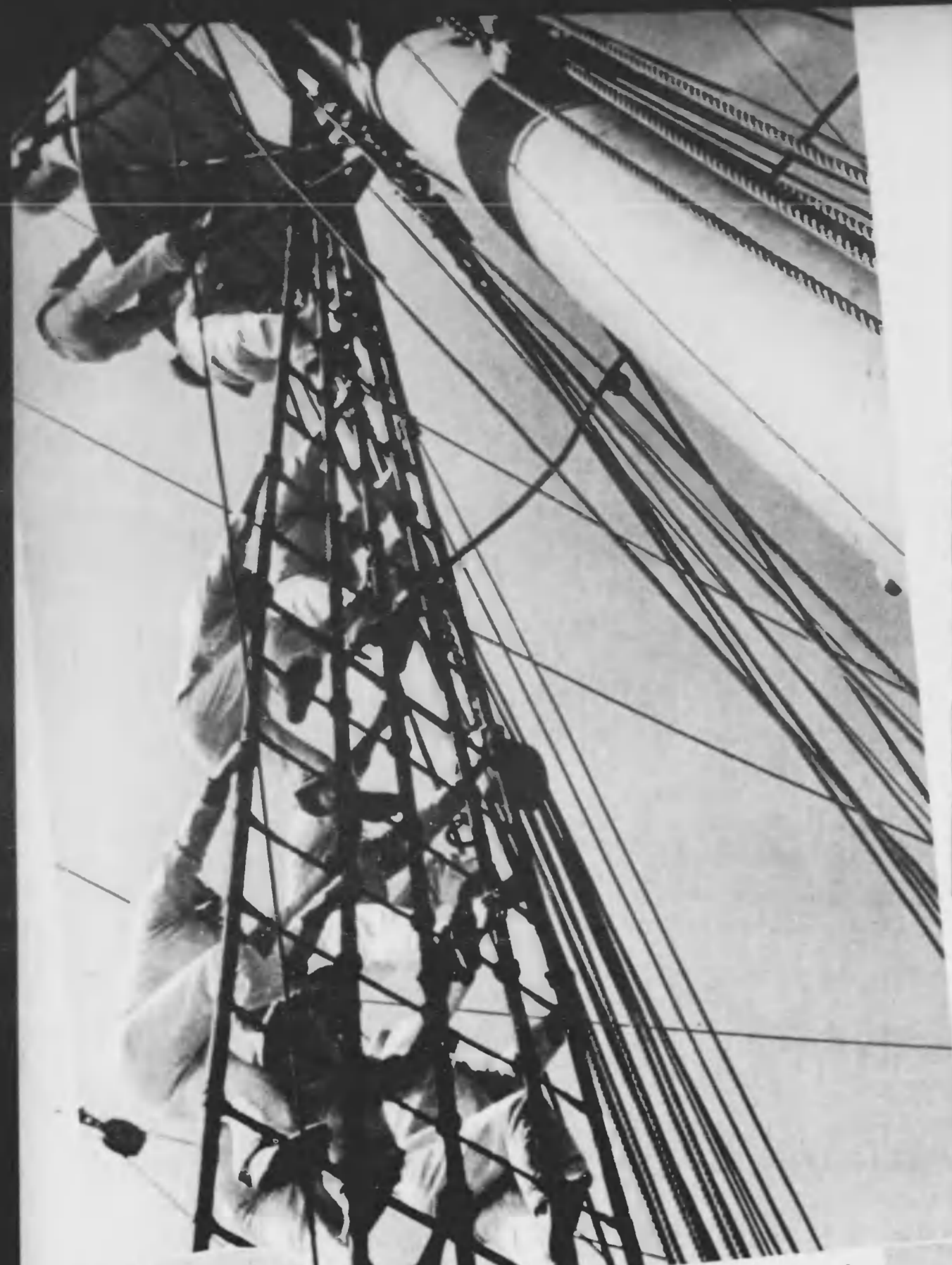
「帆上げ方、初  
め！」  
就令一、白帆は  
風を一杯はらませ  
て、ヘッドの帆を  
張る。此處は熱帯  
圏、船も夏季用帆  
で、夏よそほひ。





「故郷出でて三萬里、港に寄るはたゞ三度……」  
マストの上を流れる歌聲も潮騒ひて久々に土を踏む  
入港！ 前巻帆作業に心もはずむ。  
なつかしい様よ、家よ、港のさめめきよ  
風は南西に變つた。えつさ、えつさ、帆の角度を變  
へる操術家だ。毎日綱を握る事には、たこが一杯  
出でてもう一人前の海員になつた。故國の土を踏ん  
で、先づ安す、しびれるやうな強い握手が傳はれる。





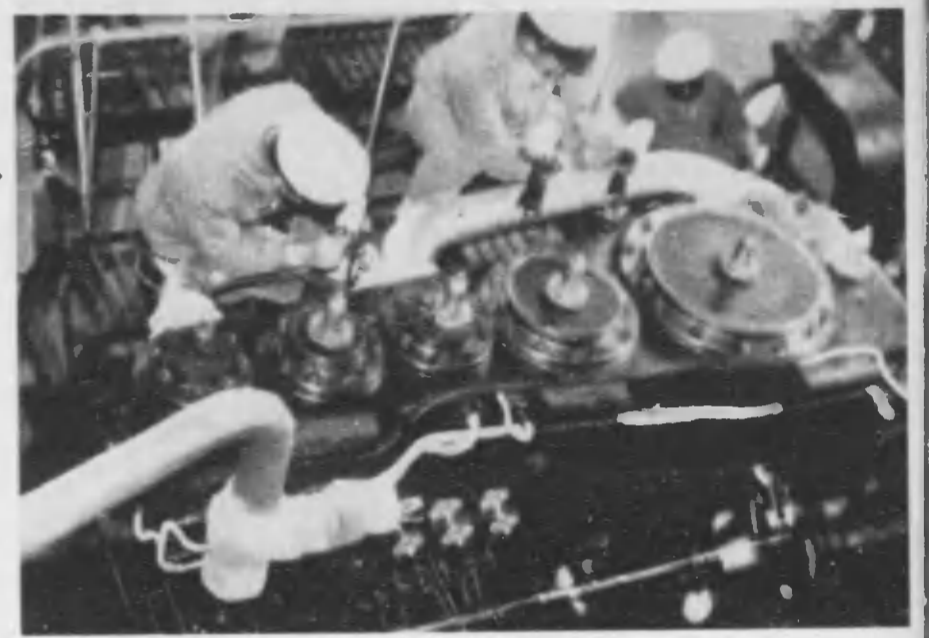
島月區橋京市京東

# 景風内校

校舎屋上の動かぬ船橋だが、海を富した艦に、今日も楽しい練習が推される。フル・スピード！からん、富貴堂のエンジン・テレグラフ（指令機）が、未来の士官の夢を囁らす。



六分儀で、太陽、星、月の位置を水平線までおろして、高さを知る天測高度計。ああ、太陽が静かにおりてくる。科学のロマンスを屋上に探れば、船よ、海よ、と、遠い潮鳴りにも響は騒ぐ。

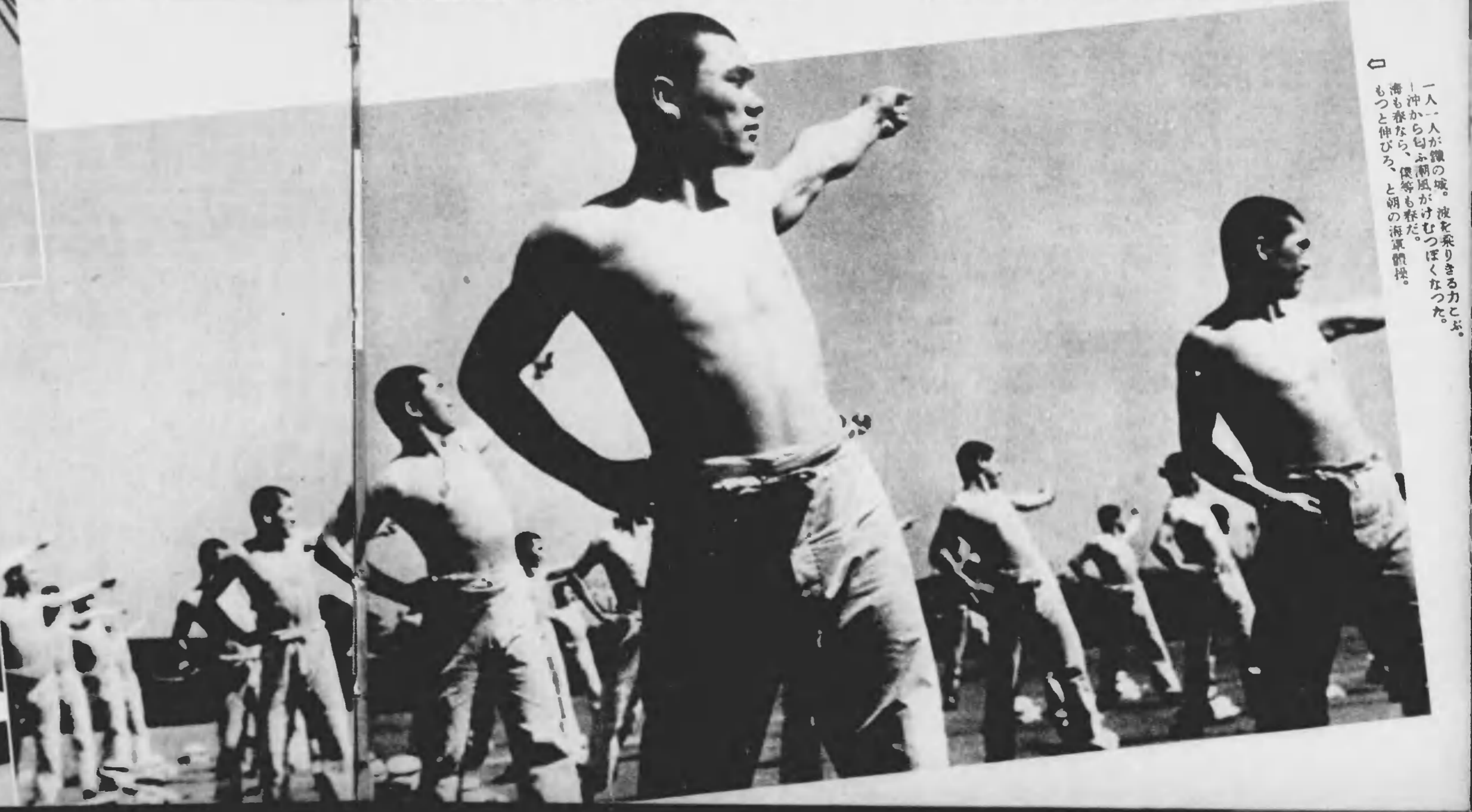


機関は船の心臓だ。船の心臓の秘密は何處にある？三聯成立蒸気汽機のパフォーマンス。



静寂のある處なら雲までも、ましろのやうに華ち上る。度胸なら、海と比べて貰はらうか。聲留録と書きたいが、聲留録船には風が無い。「早く、遠洋航海に行きたいな。」

腕はくろがね、船は中型短艇、便等の車、滑き出せ、滑き出せ、あの雲輝く空まで、いつか、水鏡女神の住家まで。



一人一人が體の城。波を乗りきる力とよ。沖から匂ふ潮風がけむつぼくなつた。海も春なら、僕等も春だ。朝の海軍體操。もつと伸びる、と朝の海軍體操。





# 守れ公徳 やさは義務だ

「かうしてニヤッしろ」と言はれることはあまり無いことではない。言ふ方の態度、誠意を以て言つてくるとそれを押しつけるだけでは親切といへない。言はれる方の側もまた理解されるだけではない。

るさうでなかか、反つて反感をもつやうになるのは人情である。我々は日本といふ社会に生活してゐる。この社会を築いて住みたいものにしては當然我々の理想であるべきだ。我々は社会の一員である以上、その一員としての責任と義務もある。然し義務とはいふまでもなく、その一員としての責任と義務を遂行することによつて自ら心たのしく愉快な日々を送ることが出来たらそれこそは、それは何であらうか、すぐ我々の手近にある。公徳だ。維新を、日本光復運動等の主眼の下にも四月十八日に行はれてゐる。光復運動は維新の公徳向上を求めてゐる。今、日本は東洋の盟主として、新しい世界の現実のうちに確乎不動の秩序をうち立てるべく、全力をあげて戦つてゐる。日本は世界無比の立派な歴史をもつた文明國だ。我々は文明國民として奮みなくてはならないだけの良心を誇りたい。これは決して卑なる體裁とか宣傳とかだけの問題ではない。總會にも田舎にも、すんでしまふべき公徳がある。人が見てゐることも見えてゐなくてもよい。自貢した社会意識から自然に湧き出るものとして現れるのが本来の目的である。未嘗有の盛況たる紀元二千六百年祝典も、さらに國威を世界に誇揚すべき。リンピック東京大會も二年後に迫つてゐる。今からである。おそくはない。今一段公徳心にめざめやうではないか。



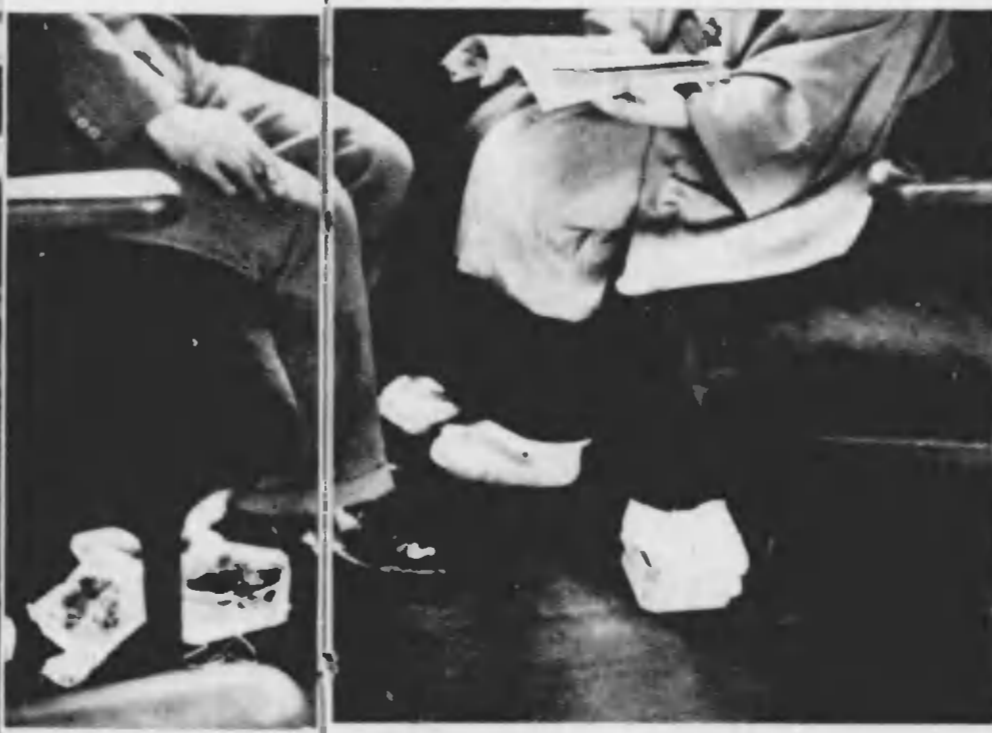
↑ 頑張りも所と場所をわきまへよ。説明はなくとも明瞭、お互ひにツクしませう。

↓ 時間の空費は誰しも嫌ひます。然し、皆が我れ勝ちに先を争へば結局皆が嫌な思ひをして損をするばかりです。秩序をちゃんと守る大國民としての操成があつてこそ、いつも氣持よく、事が運ばれます。停車場の出札口や改札口では整列して順番を待ちませう。

きれいな車内楽しい旅行—これは御當の食べガラの後仕末です。御兩人のどちらがお行儀がいいでせうか。

↑ 大のしい旅にゆかし心—小さな坊ちゃん、お嬢ちゃん、電車やバスの座席へのしがが、つて意外の風物にうち興じます。然し、靴穿きの機では脚席の座頭を汚したりして、思はずの迷惑をかけることがあります。でなくとも座席を靴ブラフシの代用にしてゐることになり、すなから側面でも靴は脱がせるかカバール用意いたしませう。

↓ 世帯辛いといふこの世の中の、また世帯辛い交又點で圓タクを切つてゐる。お客とあればすぐにも食ひつゝたいが、これはお後がつかへます。運轉手も皆共に御注意。





一降り二乗り  
三投車—  
ラッシュ・アワーの  
時はなほさらこの標  
語を守りませう。

面倒くさくてもこ  
れではいけない。道  
路は社会の公共施設  
です。

好ましい街頭風景の  
一例

みんなの食堂 行  
儀よく—列車食堂  
での食事は楽しいも  
のです。然し、限ら  
れた食卓を長時間占  
領することはつし  
みませう。

二等車に飲々乗りこ  
んだ一紳士、顔の具合  
も風采も盛々たるもの  
—だがこんなさまで  
は塞なします。

待つてみた電車に、  
先を争つて乗りたいの  
はだれしも同じこと。  
一つ社会の人間です。  
君もそうなら彼もそう  
お互ひに持たねばな  
らぬ、行儀秩序に思ひ  
やり。

降りる人が降りきつ  
てから、順序正しく乗  
りませう。

みだすな公徳 旅の  
恥 同席した婦人や  
子供の前では好きな煙  
草もなるべく遠慮しま  
せう。





長くも秩父宮殿下を祀元二千六百年奉祝会に奉獻する奉祝奉獻式並びに祝賀會は、四月十日若葉堂明冷神宮外苑競技場にて盛大に舉行された。



神武天皇御陵  
現在の御陵参道では遺憾に思はれる點が少なくないので、もとより紀元二千六百年記念事業として大規模の擴張整備が行はれる。



天武天皇、持統天皇御陵  
御陵には畏れ多くもこのやうに御根柢を参道しか通じておられない。紀元二千六百年奉祝会ではこれを立派に改修することになった。

# 紀元二千六百年 奉祝準備 進む

光輝ある紀元二千六百年はいよいよ二年の後に迫つた。政府では既に昭和十年十月一日、内閣に紀元二千六百年奉祝準備委員を設けて、奉祝記念事業を國民的祝典に昇格せしめんとし、色々調な奉祝準備を重ねた結果、祝典、奉祝記念事業に關する種々の準備事項を決定した。昨年七月一日には紀元二千六百年奉祝準備委員が、又同日、祝典に關する事務、及び奉祝記念事業に關する事務を統括する爲に内閣に紀元二千六百年奉祝事務局を設け、昨年十一月九日の紀元二千六百年奉祝準備委員會で決定された奉祝記念事業として、

- 一、横濱高等海防校及び山梨北陸各師範學校の奉祝準備
- 二、神武天皇御陵の調査保存
- 三、奉祝奉獻式並びに祝賀會の開催

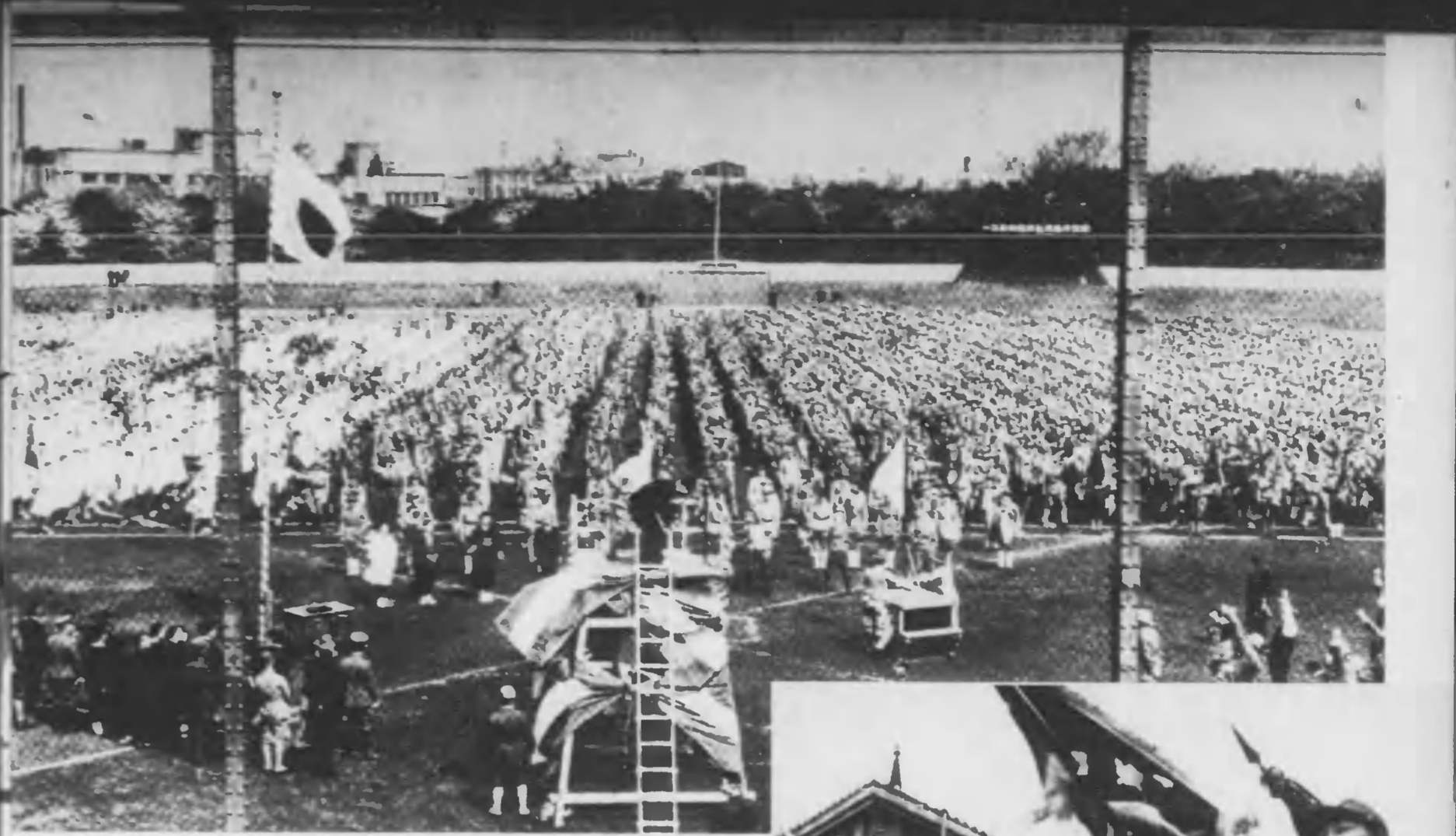
四、日本英米博覽會の開催

五、東京皇居(皇宮)の整備

六、日本文化大観(祝典)の開催

の各項で日本英米博覽會以外の事業は紀元二千六百年奉祝會で實施する事と決定し、奉祝會は昭和十二年四月に創立された。五月十一日に第一回の理事會同合議が開かれ、七月十日、組織を財団法人と改め、七月十日には、秩父宮殿下を祀元として奉祝、御陵に再建御陵大臣、善長に徳川家義親を、奉祝準備は今更々進行してゐる。尚紀元二千六百年奉祝會の事業經費は、總額壹千五萬圓、五百萬圓は政府補助金、五百萬圓は國民一贊の寄附金に依ることとなつてゐる。

淳和天皇御陵も地圖に見られる様な邊の高山に在り、参拜道路は狹窄な里道にすぎない、これも改修される。



## 見よ、試練の日本 銃後の力 神奈川縣

四月三日、神武天皇を祀して、神奈川縣男女青年團五千餘名は午前八時清涼公園及び野毛山公園に集合、中井町事務所、非営利社後の前庭を踏み台の用意を宣言し、

「我々の日本が代と共に闘争した。戦時中、我々の力と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。」

高松藩政、我々の力と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。

我々の力と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。

我々の力と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。我々の日本が代と共に闘争した。



上 頼母しくも愛國の熱にもあて集つた全神奈川の若人たちが、當日の會場、海をわたつて春風の吹く横濱公園 中 榮光の國旗を先頭に、アスファルトを踏む靴音も力強く、 下 君が代の吹奏隊は掲揚される。

寫真週報

寫真週報



東京新聞印刷部  
東京新聞社  
東京新聞社  
東京新聞社  
東京新聞社

**本誌の綴りば**

**が出来るましだ!!**

穴明けに綴る装布の酒、穴明け装布の酒、穴明け装布の酒、穴明け装布の酒



定價  
送料  
一冊六十圓  
市内六圓  
地方十二圓  
外地十七圓

**海彼の方**



大規模な軍事演習... 三月十五日、大規模な軍事演習が行われた。...



ブレンドン... 三月十六日、ブレンドンで行われた演習の様子が写されている。



用ひたす... 航空機や兵器の展示が行われ、大規模な軍事演習の様子が写されている。



**寫真集規定**  
本誌は「寫真集」の一助として、写真家の方々に、優秀な作品を寄稿していただくことを希望している。...



航空機の展示... 航空機の展示が行われ、大規模な軍事演習の様子が写されている。



本年は、大なる出来事を経験した。...



申込所	定價	昭和十三年三月印刷發行
東京新聞印刷部 東京新聞社 東京新聞社 東京新聞社 東京新聞社 東京新聞社	一冊六十圓 送料 市内六圓 地方十二圓 外地十七圓	内閣情報部 東京市印刷株式會社 東京市印刷株式會社 東京市印刷株式會社 東京市印刷株式會社 東京市印刷株式會社

表紙(表紙)	特寫
桜花の影	望月文吾
徐州の方面	廣野新聞社
敵の動き	廣野新聞社
通信の回	通信博物館
国防の第二	特寫
守れ公敵	鐵道省
見よ試練の日本	丸茂價一
奉天準備	奉天準備
海彼の方	同閣通信社

東廣週報

昭和十三年三月十日 第三種郵便物認可 昭和十三年四月二十日發行 (毎週一即水曜日發行) 第十號

# マツダ真空管

興せよ 産業  
伸せよ 国力!



# 新マツダランプ

(本書の大きさは規定規格A4・「週報」倍判)